

令和7年7月23日

株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

Dlife チャンネル 番組審議会議事録

- ・日時 令和7年6月5日(木)17:20～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名
出席委員数 5名
書面参加委員数 3名
欠席委員数 1名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員／編集長)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部 副本部長兼こども事業部長)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 吉田 千佳 (ユーチューバー)

(書面参加委員名)

- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)

(欠席委員名)

- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 元評議員)

(番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 小林 信一 (バイスプレジデント
パートナーシップ / チャンネル)
- 小峰 利憲 (ディレクター ファイナンス&プランニング)
- 奥野 祥行 (シニアマネージャー マーケティング&クリエイティブ
/ プログラミング&アクイジション)
- 高橋 朋美 (編成 マネージャー)
- 杉崎 晴那 (編成 アシスタント・マネージャー)

待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）

- ・議題
 - （１）Dlife チャンネルの番組編成について
 - （２）審議番組『GBI 特別捜査官 ウィル・トレント シーズン 1』について

・議事内容

（以下、＊：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答）

（１）Dlife チャンネルの番組編成について

- 新番組『トラッカー シーズン 1』が 6 月 27 日(金)夜 10:00 よりスタート。主演はジャスティン・ハートリー。腕利きの懸賞金ハンター、コルター・ショウが、サバイバル術と専門的な追跡技術を駆使してあらゆる謎を解いていくクライム・アクション。
- 『ザ・ユニット 米軍極秘部隊 シーズン 3・4』を 6 月 4 日(水)からチャンネル初放送。実在の極秘部隊“デルタフォース”の壮絶な任務を描くリアル・ミリタリー・アクション。
- 『財閥×刑事』が 7 月 14 日(月)からテレビ初放送。財閥の御曹司が刑事になり、事件を次々に解決していく。『梨泰院クラス』で一躍スターとなったアン・ボヒョン主演の韓国ドラマ。

（２）審議番組『GBI 特別捜査官 ウィル・トレント シーズン 1』について

・放送概要：

2024 年 7 月 23 日(火)より放送開始。

全 13 話

・番組内容：

GBI（ジョージア州捜査局）の特別捜査官ウィル・トレントは、独自の視点とスキルを活かし GBI で最も高い検挙率を誇る。しかし、アトランタ市警の汚職事件を解決した過去から、警察との折り合いが悪い上、常に三つ揃いのスーツに身を包み、昔ながらの携帯を使い、カセットテープ型のボイスレコーダーで事件を記録するなど、局内では変人扱いされていた。洞察力に長けて切れ者だが、単独主義で独特な彼の人柄の背景には、出生時にごみ置き場に捨てられた過去があった。崩壊した里親制度の中で過酷な青春時代をすごした彼は、失読症に悩まされながらも、自分と同じようなつらい思いをする人を出さないため、事件を解決していく。

- 本作には作家カリン・スローターの人気小説が原作として在って、彼女はこの番組制作の

エグゼクティブ・プロデューサーも務めている。

→この番組のポイントは、主人公のウィルをはじめとして、それぞれ個性豊かで、実は何らかの問題を抱えていながらも魅力あふれる登場人物がそろっているというところ。

- *「失読症」(ディスレクシアの中でも重い) という障害に馴染みがなくて、最初に観たときは理解できなかったのもう一度試写した。有名な症状なのか調べたところ、英語圏では文字の性質上起こりやすいらしいが、アメリカ社会では失読症の著名人も多いようなので驚いた。
- *アメリカでは、真偽は不明でも「実はわたし失読症なんだよね」という話がでるのは学校などでも良くある話で、とても良く知られている症状。
- *発達障害には、大小様々な症状があるのだろうが、一方で特異な才能を発揮している部分がフックとして描かれている。発達に関する部分は多少なりとも自分にも、誰にでもあるのではないかと過去に思ったことを思い出した。これは他人事ではなく、これまで顕在化されていなかったものが、いまになってようやく顕在化されただけなのではないだろうか。
- *主人公の特性が気になって話が流れて進んでしまったが、全体を観ていると面白く、続きが観たいと思う。
- *難読症のハンデのところはすごく上手く描いており、この主人公の場合、たまたまカセットテープとかでやっているが、今はAIなどのツールを使うこともできて、当事者たちがすごく生きやすい世の中になっていると思う。魅力的な人は、ADHDなどの特性を持っていたりすることもある。
- *犬を持って帰ってしまっただ変なことを忘れていたり、そういう完璧じゃない人たちの魅力が出ていて、完璧じゃなくてもツールの支援が加わって問題なく活躍しているところが魅力的だと感じた。
- *冒頭の部分から「こんなに来るの?」と思ったほど、怒涛のスタートで衝撃だった。そのスタートから進むと世界観がガラッと変わって、なんだか違う作品見てるのかと思うくらい、そのイントロの部分とメインの部分がちがうと思った。
- *画面の色がセピアトーンで、古いツールを使う主人公のキャラクター性を表しているのかもしれない。古く見える色の画面の中で Air Pods など現代の機器が登場するので、時代設定が分からなくなる瞬間があった。他の最新ドラマとは大きく色が違って驚いた。
- *作品としては冒頭ですごく惹きこんでくるし、謎解きのように時間が巻き戻る描き方も凝っているし、キャラクター像や人間関係、虐待のような社会問題も取り入れていて、盛りだくさんと感じた。
- *しかし気になるポイントはいくつかあり、例えば、「実在する市警はそんなに無能じゃないだろう?」「女性が瞬時に BMW に気が付くのか、これは罠なのではないか?」等というように、いくつか疑問に思うところもあった。

- * 「ポールの父が大きな白いハンカチを使っていた」 ことに関しても違和感があると感じていたが、これについては、同じ施設の育ての親の教えということが判明して、じつは伏線だったということで解決されたので、他も次に繋がる伏線なのかどうなのかが気になったので、続きが観たい。
 - * 毎回、あえて先に作品解説を読まないで作品を視聴するが、今回は、これを見たときに難しい内容と感じた。クライムサスペンスは大好きだが、アンジーと主人公のウィル、マイケルの関係値も色々あり、匂わせがかなりあるし、相棒が転属した理由も色々ありそうだ。さらに本編の事件もあり、情報過多でついて行くのが大変だった。
 - * 若い頃からクライムサスペンス好きで話について行ける自信があったが、これを見て少し自信が無くなった。若い人はこれについて行けるんだなと（笑）。
 - * しかし、一度はまってしまえば絶対に面白いと思う。以降の展開がすごく気になる。解説を読んでから「こういう話だったのか…」と納得し、見事に術中にはまったと思う。
 - * 先ほど出たセピア色の色味は、仰る通りで意図は分からないが、色味やビジュアル面なこだわりを感じた。
 - * 犯罪捜査ものというのは、番組としてライバルがすごく多いジャンルではあるが、この作品には、とても濃い特徴を持った登場人物が多く出てくるので、他の犯罪捜査ものとはまた違った、特徴的な内容だと思った。
 - * 登場人物それぞれの背景や、チームとして今後どう成長するかも気になる。
 - * 演出的には、ちょっとやりすぎと感じるところもあるが、今の時代は、あまり薄口だと食いつきが悪いと予測して、おそらくこういう形にしたのであろう。
 - * Dlife の番組として、テンポも良く内容も面白く、問題ない。
 - * 人気のある原作小説のドラマ化であり、原作者がプロデューサーの一人になっていることも安心感があり健全だと思う。テレビ用のオリジナルな展開がこのあと始まってファンとしては残念には思わず、続きを見られると思う。
 - * ディスレクシアのような個性の紹介や、養護施設の出身という主人公の生い立ちなど、社会問題への取り組みも、自然に織り込まれた現代的な作品だ。
 - * ストーリーの内容としては、犯罪捜査・密室ものとして、意外性もある。
 - * 主人公にしては、少しずんぐりしていて唐変木っぽいところがあるが、事件解決に関しては天才的なものがあり、普段は不器用なところがあって、これは新しく現代的な人物設定だと思う。
 - * シーンによってはバイオレンスもあるものの、行き過ぎた感は無いので、初めて見た人も安心して見られるところがある。
 - * 続きが是非見てみたい。どういうふうに話を回収していくのか気になる。
- 本作は Disney+ でも配信しているが、良作をお届けしたいという思いから、チャンネルでも放送することにした作品。アメリカでは第 3 シーズンまで更新されているので人気がある。日本でも第 2 シーズンを 10 月から放送予定。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 7 年 6 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和 7 年 7 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

